

令和4年度 第4回 こども部会 会議録

【日時】 令和4年12月14日(水) 13:30~15:00 つるぎ町農改センター2階視聴覚室

【参加者】 池田支援学校美馬分校、美馬市・長寿障がい福祉課、美馬市保険健康課
美馬市教育委員会教育研究所、こどもすこやか課、つるぎ町保健センター
つるぎ町福祉課、ピース、美馬保健所、障害者支援センター小星園、児童デイワンハート穴吹、
相談支援事業所ワンハート、障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント
(計16名)

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. こども版障がい福祉のしおりの活用方法について

①しおりの修正箇所等

- ・P13 通所支援事業所の閉鎖に伴い、3事業所を削除(びっぴ、つくし、ナイスかもじま)
- ・P42 母子保健事業(つるぎ町) 親子教室「ひまわり」、現在実施していない為、削除
- ・日中一時や短期入所の情報がもっと細かく記載されていると保護者に説明しやすい。(送迎の有無や自己負担額等)

②活用状況

- ・窓口対応の際にしおりを見せながら説明をしたり、必要な部分だけ印刷をして渡している。冊子は設置していない。
- ・サービス利用の希望があった時に福祉課と連携をして情報提供を行っている。
- ・特別支援連携協議会の中でしおりを紹介したり、教育委員会窓口に冊子を設置している。
- ・巡回相談の際に事業所や相談先の情報提供を行っている。保護者にHPを紹介し、ダウンロードしてもらう事もある。支援学校事務所に冊子を設置している。
- ・保健所に直接相談はないが、必要に応じて活用していきたい。

○今後、各相談窓口にて冊子を設置して頂いたり、市町や事業所のHPにリンク先を貼り付けてもらうなど検討していく。

2. ヤングケアラーについて

「小6の6.2%がヤングケアラー」(12月7日徳島新聞より)

○県の調査では対象者の7~8割が相談経験がなく、実態が分かりにくかったり、支援の在り方が課題となっている。こども自身が現状をどう捉えているのか、関係者がどこまで家庭状況を把握できているのか。相談=サービスにつなぐ事が終着点なのか。当事者は家族の役に立っている、存在意義を感じているケースもあり、「ヤングケアラー」とは大人目線で捉えた状況であるかもしれないので介入のしにくさがある。

- ・行政や学校、福祉関係など各機関によって介入や支援方法は異なるが、ヤングケアラーと言われることの方がいる事を念頭に置いて、相談が出来る環境がある事を知らせていく。支援者は協議会の活用も。

3. 情報交換

①放課後デイサービスの基準支給量の見直しについて

○徳島市では2021年10月1日より、月に利用できる日数の上限を現在の月当たりマイナス8日を15日に変更になっている。障害者手帳の提示または医師による診断書または意見書の提出等があり、必要と認められる場合には15日を超える利用が可能とされている。美馬市やつるぎ町の支給量はどうなっていくのか。

- ・美馬市は今のところは現行のままだが利用人数が増えてきているので状況によって検討が必要になってくるかもしれない。
- ・つるぎ町は検討してない。

②「小中の発達障害8.8%」(12月14日徳島新聞より)

○公立の小中学校の通常学級に発達障がいのある生徒が8.8%在籍している。文科省は支援策として通級指導を重視。

- ・美馬市は脇町小学校、岩倉小学校に、つるぎ町は半田小学校、貞光小学校に通級を設置している。“8.8%”という数字は学校教員の発達障がいに対する意識の高まりでもあると言えるのかもしれない。

③その他(2グループに分かれて情報交換)

- ・境界知能で療育手帳に該当しない場合、支援につなげなくなる可能性がある。医師の意見書など支援の必要性を証明できるものがないとサービスを受けられなくなる場合がある。
- ・ヤングケアラーについて、当事者にとっては日常の事なので周囲の意識とズレがある。世間の捉え方もイメージの低下に繋がっているかもしれない。サービスに繋ぐだけでなく、地域で支援をする体制も必要。
- ・支援が必要なことに対して相談支援専門員の立場として、現状を見ながらどこまで親の思いに寄り添っていけるだろうかと悩むことがある。
- ・池田支援学校と美馬分校卒業後の進路(就職先)に違いあるのか保護者から相談を受けたことがあった。進路は生徒の状況に合わせて決めており、本校と分校のカリキュラムは同じ。作業については違いはあるが各学校で就労に向けてのスキルを身に付けていくために指導をしている。
- ・発達障がいの疑いがある不登校の小学生が自宅できょうだいの面倒を見ているケースがある。学校と保護者だけでなく、巡回相談や相談支援事業所、放課後等デイサービスなど関係機関を巻き込んでチームで支援を行う事で支援の視点も変わったり、見えてくるものも変わってくるのではないだろうか。
- ・巡回相談で関わっていた児童がワンハートを利用するようになり、母子関係が良くなったケースがあった。

*次回開催 令和5年2月15日(水)13:30~ 美馬市 予定